

01 RIAまちづくりフォーラム まちの価値と個性をともに考える

RIAは長年まちづくりの専門家集団として都市の再生プロジェクトに携わり、その成果を全国の都市で展開してきました。加速度的に変化が求められる社会構造の変革のなかで、都市の課題も多様化・多価値化の様相を深め、まちづくりの実践技法も、さらなる工夫と高度化が求められています。まちづくりフォーラムは、RIAが培ってきた「まちづくりの技法」を広く社会に還元するとともに、専門家や地域の方々、学生など、多数の皆様のご参加によって「個性あるまちづくり」を考える場です。社会とともに研鑽を深めることで、新たなまちづくりに関するコミュニティを形成し、高度なまちづくりの技法の開発、実践に貢献してまいります。

まちづくりフォーラム - これまでの開催実績

- 第1回 保存と開発の調和 — 金沢のまちづくりと都市開発
- 第2回 紡ぐまちの遺伝子 — 昭和の再開発ビルを解きほぐす
- 第3回 地域力を活かしたまちづくり
- 第4回 都市の可能性を引き出す手法



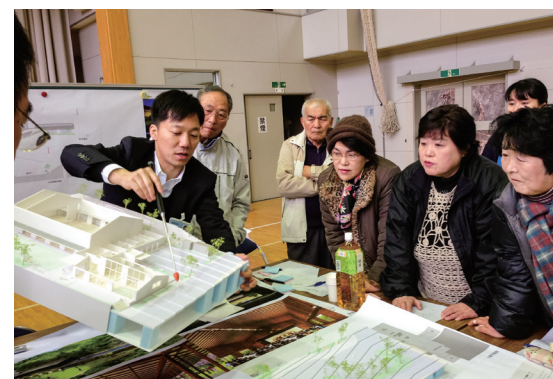
ルールを作る前にやりたいことを共有

新山口駅北地区拠点施設整備事業

山口市の市有地を活用し、公共施設を整備し、施設

RIAの実践

02 東日本大震災復興への取り組み 市民とともに“復興の灯”をともし



東日本大震災により、甚大な被害を受けた方たちにとって、新しいまちに必要な“復興の灯”とはなにか。その答えは市民や関係者の方たちとの対話のなかで生まれると考えます。被災者の方たちや多岐にわたる関係者との模型を使ったワークショップやデザイン調整会議を通じて、そのまちに本当に必要な建物はなにかをともに考え、かたちにしていきました。RIAはこれからも、そこに住む方たちに寄り添い、対話を通じて人と建物の“間”の価値創造を続けてまいります。



大槌町中央公民館安渡分館・避難ホール
東日本大震災の津波によって被災した公民館を高台に再建するプロジェクト。市民を集め、模型を囲んだ対話を繰り返し、つくりたいモノ、したいコトを丁寧に紡ぐことで、市民みんなの家のような場所ができました。

気仙沼市まち・ひと・しごと交流プラザ PIER7
まちを津波から守る防潮堤、海岸公園、スローシティ観光商業施設「ムカエル」、まち・ひと・しごと交流プラザ「ウマレル」を一体的に整備し、海とまちが連続した景観を創出しました。地域住民、地元産業界、宮城県、気仙沼市、建築・土木など、多主体事業連携を可能にしたデザイン調整などが評価され、グッドデザイン賞および日本都市計画学会計画設計賞を受賞しています。



03 リノベーション／コンバージョン 地域の既存ストックに新たな風を吹き込む

市民やまちのニーズは常に変化しており、その変化にまちづくりが応える新たな手法として、リノベーションやコンバージョンが昨今注目を集めています。今のまちに必要なものを的確に把握しつつ、積み重ねてきたノウハウと、時に大胆な発想を持ち込み、既存ストックの価値を最大化する知恵と技術による挑戦を続けてまいります。

美馬市地域センター「ミライズ」

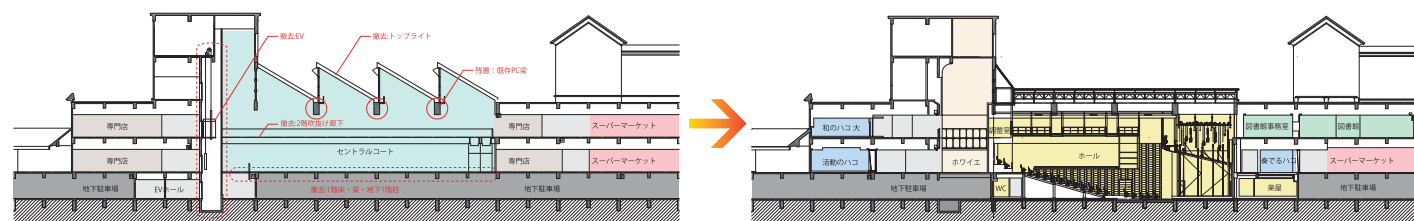
大型商業施設をホールや図書館、市民センターが入る複合施設へとコンバージョンしたプロジェクトです。セントラルコートと吹抜空間は地下駐車場との間の床を撤去し、3層分の気積をもたせたホールへと生まれ変わりました。リニューアされたスーパーマーケットと併せて、市民の拠り所としてまちづくりに貢献しています。セントラルコートと吹抜空間と地下駐車場の一部を3層吹抜けの本格的な音楽ホールにコンバージョンするという大胆な空間操作などが評価され、BELCA賞ベストリフォーム部門を受賞しました。



Before



After



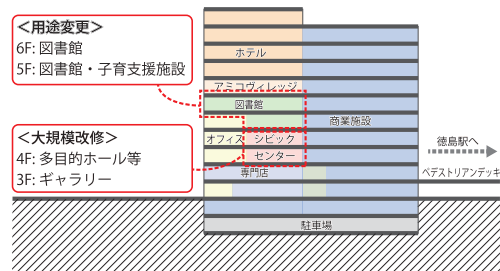
Before

After



徳島市立図書館

1983年に市街地再開発事業によって完成した民間複合ビルの一部をコンバージョンし、図書館などの公共施設を入居させたプロジェクトです。駅前の空きスペースを有効活用することで利用者の増大、同ビル内の商業施設の集客向上はもちろんのこと、駅前の活性化への貢献といったさまざまな相乗効果をもたらし、まちなかの賑わいの創出に寄与しています。



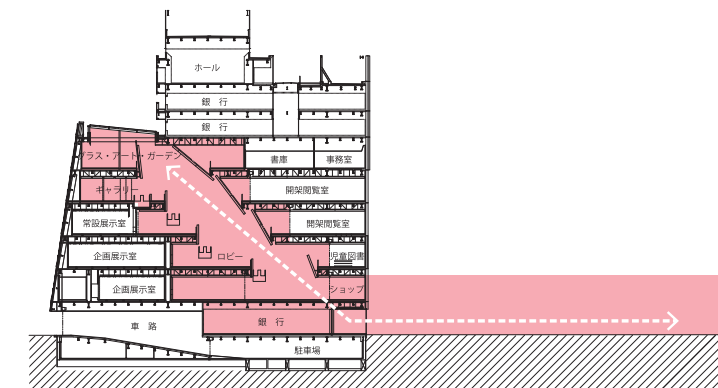
<用途変更>
6F: 図書館
5F: 図書館・子育て支援施設

<大規模改修>
4F: 多目的ホール等
3F: ギャラリー

04 公共施設 まちづくりとしての公共施設

私たちは公共施設の計画をまちづくりの絶好の契機と捉え、建物単体として機能やデザインにとどまらず、まち全体の魅力や賑わい創出に寄与できるものを積極的に提案しています。

公共施設等の再編や公民連携事業に関する調査や企画、計画および事業参画に数多く取り組んでおり、まちに必要な公共施設のあるべき姿を丁寧に読み解き、かたちにしてお手伝いを行ってまいります。



TOYAMAキラリⅣ

富山市の掲げる「コンパクトシティ」の歩行者ネットワーク、平和通り、西町交差点といった都市空間とつながり、建物内で立体的に展開する斜めの吹抜空間(スパイラルポイド)を計画し、まちのストリートと連続した公共施設を目指しました。吹抜空間にはさまざまな賑わいや活動があふれ、そこで生まれた活気がまちへと広がっていきます。

05 再々開発 再開発ビルの再生の取り組み

社会環境の変化に伴い、空間や機能において時代の要請に対応できず、まちづくりの役割に答えられなくなった再開発ビルの再生(再々開発)に取り組んでいます。既に高度利用された再開発ビルの開発余力の乏しさ、大型耐火建築物であるが故の解体の費用や期間、区分所有建物としての区分所有者の合意形成など、再々開発における様々な事業化のハードルに対して、ノウハウと経験を生かすとともに、創意工夫を図りながら事業を進めています。

大阪府堺市堺東駅南「ジョルノビル」

ジョルノビルは、1981年に完成した再開発ビルで、長く市民に親しまれてきましたが、2001年の核テナントの撤退以降、空店舗の増加が進行し、中心市街地の主要地区として、その再生が求められてきました。商業区分所有建物としての権利調整や再々開発としての厳しい事業成立性に対し、堺東駅からの歩行者環境などの公共施設整備と併せた都市機能の更新を図ることで、権利変換手法や補助金導入を可能とする市街地再開発事業(会社施行)として取り組んでいます。



兵庫県尼崎市塚口南

「塚口さんさんタウン3番館」

昭和の時代に完成した旧耐震の商業系再開発ビルですが、店舗レイアウトの関係から耐震補強が困難などの理由により、建替えが必要とされてきました。周辺地区や公共施設再編と合わせた法定再開発の実施が困難である状況や、航空法の高さ制限により、現状より高い容積率の確保が難しいなどの事業化のハードルがありました。住宅地としてのポテンシャルの高さを生かした区分所有法建替えとして取り組んでいます。

